

成年年齢引下げを見据えた環境整備に関する
関係府省庁連絡会議
成人式の時期や在り方等に関する分科会
(第7回)

第1 日 時 令和元年10月30日(水) 自 午前 10時30分
至 午前 11時30分

第2 場 所 法務省共用会議室4

○座長 それでは、定刻になりましたので、第7回になりますけれども、成人式分科会を始めさせていただきます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

これまで、成人式の時期や在り方等につきまして、関係団体からのヒアリングを実施いたしまして、対象年齢とか実施時期について、御意見を承ってまいりましたし、私どものほうでも意見交換をしてまいりました。

予定しておりました主な利害関係者、有識者の方々からのヒアリングを、おおむね終えたと思っておりますし、市町村を対象とするヒアリングも実施いたしまして、最初は20歳を維持するという御意見もいただきましたし、前回は、19歳に引き下げるという御意見もいただきまして、それぞれの立場から御意見を承ってきたところです。

私どもとしては、今年度中には取りまとめをするということもございますし、おおむね、予定していたヒアリングですとかアンケート調査等も行い、また、昨年の世論調査の結果も報告させていただきましたので、今後、取りまとめに向けて進めてまいりたいというふうに思っております。

今まで関係者の御意見を聞くということが主になってきて、この分科会の中での意見交換に、それほど多くの時間をとっていなかったものですから、取りまとめを控えた時期になっていますので、御意見、御議論いただければということで、今日はお集まりいただいたという次第でございます。

資料といたしましては、資料1として、これまでのことを振り返って議論するという今回の目的に照らしまして、今までのヒアリング結果をまとめたものを御用意させていただいております。復習がてら御紹介させていただきながら、それぞれの項目について御議論いただければというふうに思っております。

基本的なスタンスとして、これまで何度も申し上げてきましたように、政府として何か、統一的な方針を示す立場でもありませんし、省庁側から、こうすべきだとか、ああすべきだというような立場でもないと思っておりますので、最終的な取りまとめの姿としても、基本的にはヒアリングの内容を御紹介して、それぞれの市町村において御検討いただくための材料を提供するという形にまとめたいというふうに思っておりますが、オブザーバーという形で、教育関係者の方々もきょう、たくさんいらっしゃいますので、それぞれのお立場から、着眼点みたいなものについて御指摘いただければ、今後の取りまとめに盛り込んでいけるのかなというふうに思っております。

そういう意味で、これまでのヒアリングを振り返りながら、その位置づけ等につきまして、少し整理してまいりたいというふうに思います。

資料1をごらんください。成人式の在り方を考えていくに当たっては、対象年齢と実施時期が検討課題になってくると思っておりますし、ヒアリングでも、そういったところについて御意見を承ってまいりました。

ただ、前提として、成人式の意義をどのようなものとして捉えるのかが、一つの出発点になるのかなというふうに思っております。そういうこともあって、ヒアリング項目という形で、成人式の意義について、各対象者の方々から御提出いただいたところがございます。

ざっくりと簡潔にまとめておりますけれども、資料1の「(1)成人式の意義について」というところをごらんいただきますと、人生の節目だとか通過儀礼というような役割、伝統文化に触れるというようなこととか、成年の自覚を持って社会に参加するという、新しい一歩を踏み出すというようなことですか、そのようなことが、おおむね重なるところもあるかと思っておりますけれども、指摘されていたかと思っております。

こういったものを踏まえまして、特に、できればオブザーバーの方々から、教育的な観点も踏まえて、成人式の意義について、何かつけ加えることとか、あるいは、この中で、特にこの辺が重要なんじゃないかというようなことがありましたら、少し御意見を伺いたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

何かございますか。市町村教育委員会連合会のほうから。

○**全国市町村教育委員会連合会** 原でございます。おはようございます。よろしく申し上げます。

ここに書かれているように人生の節目という非常に大事なことで、今まで成人式を捉えてまいりました。それで、やはりこの成人式の意義の大事さを感じています。

それから、2つ目に出ている日本の文化と伝統、このことについても、過日、天皇の即位に関する儀式・行事等がありましたけれども、私たちは、歴史と伝統の意義と大切さを感じております。それと、意義についてと書かれていることも全て、そのとおりでらうと感じております。

以上です。

○**座長** ありがとうございます。

都市教育長協議会さんは何かございますか。

○**全国都市教育長協議会** ここに書いてあることそのものだなというか、ずっと流れとしては、子供からずっといくわけですけれども、それから、大学生になったりという形で、学生生活を結構送る子が多いかなと思うんですけれども、一応、大人になって、社会で責任を持った形でやっていくんだという自覚をちょっとするためにも、何か節目というか、お祝いをして、それぞれに自覚を持ってもらうという一つの、成人式というのは、形だなというふうに思うので、やっぱりみんなでお祝いをしてあげる形がいいのかなと、ここにほとんど書いてあるので、これでいいのかなというふうに思っています。

○**座長** 参加者の側の自覚という点が。

○**全国都市教育長協議会** そうです、そうです。本人が、それから親御さんも、今までと同じように子供扱いしてやっていくんじゃないかと、ああ、きょうから成人式迎えたんだという形で、親も一緒に自覚するということもあるかなというふうにちょっと思います。

○**座長** ありがとうございます。

町村教育長会さんは何かございますか。

○**全国町村教育長会** 今までおっしゃったこと、そのとおりでらうんですが、何というかな、成人式というのと成人になるというのとが、今まで一緒に考えられてきて、大人になるから成人式をするんだという感覚の成人の祝いという感じで、法的に決められてきた中での催しだったというふうに思うんですね。それが自覚として、大人になったということと位置づけさせるという意味合いがすごく強かったということと、それから、20というのは非常にいい節目なんですね。20という、一つの数字の中でのもの、見方もあるんでしょ

けれども、20が非常にいい節目として定着をしてきたということは、いえるんじゃないかなと思うんです。

成人式の意義というのは、今までおっしゃられたような節目だとか伝統的なもの、あれだとかという、自覚をする、大人も、それから親も、みんな自覚をやって、いいことも悪いこともできるようになるんだという、そういう日として、成人式というのを節目にしていたというふうに思うんですが、その先のこと、ちょっとあれなんですけれども、成人式というのを、式というのかな、式ではなくて集まり、集いという考え方に、次第になりつつあるというふうな思いがすごくします。

ですから、成人式というものに、こだわることはないんじゃないかなというふうな思いを私はしています。

○座長 ありがとうございます。

今ちょっと最後におっしゃった、式ではなくて集いという捉え方がされていくというのを、もう少し具体的におっしゃっていただけますか。

○全国町村教育長会 いわゆる式典みたいな形で、今まできちとした形でやってきましたよね。そういうものじゃなくて、実行委員会形式でもって、みんなで集まって、わいわいやろうじゃないか、せつかく20になったんだから、みんなで集まって、わいわい騒いで楽しんで、そして、俺たちの自覚を高めよう、あるいは大人にアピールしようみたいな、そういう集いになりつつあるような気がするんです。

それでまた、今そのものが、これからこのことを考えるときに、教育委員会としても、集いの考え方というのがすごくふえているような気がします。

○全国市町村教育委員会連合会 私は、やはり成人式の内容は式典、もう一つは集い、やはりこれは両方必要と考えています。

例えば、学校でいうと、卒業証書授与式、やっぱりこれは儀式です。やっぱり、ある意味で。厳粛に行うもの。また、仲間と和気あいあいとやる内容は、集いの方に入る内容と考えます。各市町村で考える時に、成人の集いとして扱うと表現がやわらかいので、集いの方が集まりやすいかもれません。しかし、式典の内容をやめてしまうと、多分、そう思うところは少ないと思うんですけれども、本来の成人式の意義が弱まってしまう。

これは、先ほど都市教の事務局長さんがおっしゃいましたように、やはり大人が、「成人の皆さんおめでとう」という祝福の気持ちと同時に、自覚を促す場であるということ、そして、仲間同士が称え合う。このバランスは、式典は短くなっても、ぜひ残していただきたいと思っていますところでございます。

○座長 自覚を持ってもらうというためにも、一定の厳粛さが必要なんじゃないかということですね。

ちょっと町村教育長会さんのほうでおっしゃった、成人式と成人になるということが、これまでイコールだったけれどもというふうに、最初おっしゃったかと思うんですが、そこは、これからもイコールでということになるんですか。

○全国町村教育長会 イコールで考えていくのが普通かなというふうに思います。ただ、そうじゃない考え方が、さまざまに出てきているということも事実じゃないかなというふうに思います。

今おっしゃったように、式のこと、私も大事にしたいというのは思いますけれども、式を

なくそうという動きもないわけではない。でも、何というかな、公の場でもって、我々が考えて、何か公のところではアピールする場合には、式はやらなくてもいいよなんていうことは絶対言えないというふうには私は思っていますから、だから、そうじゃなくて、もっと違った形の式というものを考えていくようなものの訴えかけは必要なのかなという思いはしています。

○座長　そこで違った形になっていくというのは……

○全国町村教育長会　例えば、集いの中での式ということもあり得るわけですよ。今言った厳肅さ、ここでけじめをつけるんだよという部分を集いの中に入れるということも現実にあるんです。卒業式やなんかも、そういう形ね。名前が変わったとしても、ここは式なんだよというものをやるということも、できないわけではない。

ただ、それは、学校レベルの問題です。教育委員会レベルではないというふうに思いますので、余り公には、いえないのかもしれないと思っていますけれども、ただ、教育委員会としては、やっぱり厳肅なものとしての式という捉え方というのかな、それはやっぱり打ち出すべきだというふうには思います。

○座長　やはり厳肅さが、成人式の意義から出てくるということでしょうか。

○全国町村教育長会　日本の伝統だと思います。

○座長　ありがとうございました。

やはり、いろいろ書かれた中で、網羅されているんじゃないかという御意見とともに、その中でも特に、参加者、若者自身の自覚、それから、親側の自覚ということの視点も出ましたけれども、そういった自覚が必要なんじゃないかと。そういった自覚を持たせるためには、やはり一定の厳肅さが求められるんじゃないかという形でまとめられるのかなというふうに思いました。

少し、そういった意見とは少し視点が違うものとして、例えば、地元を意識するとか、地域の人と触れ合うというような意義も指摘がされておりますけれども、こういった点についてはいかがでしょうか。

○全国都市教育長協議会　いいですか。

都心部であると、自宅から大学に通ったりしている子も結構多いけれども、ちょっと離れたところのお子さんとかは、行く大学によっては、家を離れて、地元から遠くに暮らしているわけで、成人式がある機会に地元に戻って、みんなと会うとか、それから、成人式を準備して下さったり、周りでいろいろフォローして下さる大人たちとも触れ合える、いいチャンスではあるんですよ。

ですから、高校を卒業してから、大人になったという自覚を、成人ということで持った上で、地元に戻って、ああ、周りでいろんな人の支えがあって、自分が今大学にも行っているし、例えば、社会人になって、どこかで働いているということで、地元に対する思いも、やっぱり時々しか帰れないわけだし、そういうときに、同じ同級生と一緒に、そこで会えて、みんなでするということを確認するというか、地域のよさみたいなものも、ああ、自分もああいうような大人にならなきゃいけないというふうに思える、いいチャンスなので、いいのかなというふうにはとても思います、集いであろうと式であろうと。

大体は、式典をやって、その後、集いをやるというような二部形式でやっていたり、いろいろやっているの、それはそれぞれの市町村で、市と教育委員会と、いろんなところが

合同でやったり、実行委員会も一緒にやるとか、形は、今まで自身もいろいろあるので、それは、その形が続いていくのかなというふうにはちょっと思います。

○座長 ほかのお二人、何かございますか。

町村教育長会さん、いかがですか。

○全国町村教育長会 地域との触れ合いとか、地元を意識するというのは、結果的にそういうものが出てくるという中身だと思うんです。ですから、成人式の意義だとか目的にこれを持っていくことは、余りいいことじゃないかなというふうには思いますね。

要するに、儀式やなんかを考えるときの参考として、この地域の触れ合いとかと出てくるんであって、成人式そのものは、地域に密着させようとするものではないと思いますので、副次的な、先ほどもちょっとありましたけれども、結果的にそういうものも、意義として、意義というかな、中身として、有意義なものとして捉えられるということだろうと。

○全国市町村教育委員会連合会 まとめに書いてあるとおりで、ふるさとに帰ってくる機会をつくることは、自分のふるさとを意識して、親兄弟、地域等を再認識する機会になって、交流を通して、ふるさとの人が地元で頑張っていることを知り、自分も地元で頑張ろうというきっかけになる。それが地域の活性化につながり、将来的には、今は戻れないけれどもいつか必ず帰る。このように、いろいろ幅広く、これは捉えられるのかなと思いました。

ちょっと戻るのですが、成人式の意義について、2つ目の日本の伝統的な和装文化に触れるということ、いきなり和装文化がメイン着ている。ここでは、日本の伝統的文化に触れるということ、その中で、さらに、和装文化に触れる中で……。その文面を、ちょっと工夫していただくと、ありがたい。

○座長 今、伝統的な文化の話になったんですが、成人式は、確かに振り袖とかを着るということで、そういう指摘をされる方もいらっしゃるんですが、そういった面以外に、日本文化に触れるという機会になっているのでしょうか。

○全国市町村教育委員会連合会 結局、元服とか、成人の意味を考えることだと思います。

それと同時に、この成人式、かなり長い間続いてきていますので、やはり、おじいちゃんの代から、その前からずっと続いてきた行事です。私たちが成人式を迎えることは、歴史も浅いし、最初の元服の頃から振り返ると、やっぱり伝統文化の一つになっているのかなと思います。

○座長 成人式そのものが伝統文化だと。

○経済産業省 いや、ありがとうございます。反対に、和装という言葉を書いちゃうと、これだけがひとり歩きしていて、今、本当に振袖の子も多いけれども、そんなに多いのはここ10年か20年ぐらいの間であって、もともとはスーツであつたりとか、いろんなことがあってというのが本来。

○全国都市教育長協議会 モダンになったということね。

○経済産業省 要は、和装だけがやけに取り上げられるとすると、ちょっと違和感があります。

○全国都市教育長協議会 私も、この和装という文字が、ちょっと違和感があります。

○経済産業省 でも、大事な伝統文化だから残しておいてあげたいと、さっきの……

○全国都市教育長協議会 それのために夏にしちゃっているところが、今既にあるわけじゃないですか。だから、和装という言葉は、ちょっと消したほうがいいかなとはちょっと思いました。

○**経済産業省** 美容もあったし、写真屋さんとかいろいろあるのに、何でここだけ、和装業界だけを取り上げられても、ほかの伝統文化にも触れることもあるわけだから、その部分は残してあげても……

○**全国都市教育長協議会** 伝統はいいと思いますけれども。

○**経済産業省** 要するに、日本の文化の伝統に触れるということ、前面にそこを押さえておいて、その中で、そういう機会があるというふうに、であれば……

○**座長** ありがとうございます。

地域に触れ合うとか、同窓会としての意義という意見も出ましたけれども、それは成人式である必要があるのかという視点もあるのだと思います。そういうようなことを、町村教育長さんがおっしゃったんじゃないかと思ったんですが、それはやっぱり副次的なものということなんですか。

○**全国町村教育長会** うん。いや、いい機会なんですよ、やっぱり。だから、意識する機会であるということは確かなことだから、事実だから、それはそれとして、生かしていいんじゃないのかと思います。

○**座長** そういう意味では、市町村の判断で、成人式という機会をうまく地域おこしに使っていかうというのだったら、そういうこともあり得るんじゃないかと。

○**全国町村教育長会** あり得ることだと思いますので。

○**座長** 実際何か、地域の特色みたいなものを参加者に意識させるみたいな工夫とかがされているのでしょうか。

○**全国町村教育長会** 具体的にはちょっとあれですけども、少なくとも、お祝いの言葉の中には、地域のすばらしさと、すごく出てきています、いろんな形で。だから、アピールする場面にはなっているというふうに思いますね。

ただ、地域の地元で実行委員会等で進めているときにも、やっぱり地元の何かものを取り入れてということも、ないわけではないと思います。

○**座長** ありがとうございます。

○**全国市町村教育委員会連合会** 同じように、地域の行事がこの時期にあるとか、成人式の行事があるので、ここでやろうとか、このように、地域の活性化に繋がる部分や地域の伝統文化を大事にしようという意識があり、成人式をその時期に持ってきている市町村もあるように思います。

○**座長** それでは、対象年齢のほうについても、少し進めてまいりたいと思いますが、ここは、20歳とすべきとの意見が、内閣府の世論調査の中で、若い方々、親世代ともに、一番多かったということもありますし、ヒアリング対象の中で御紹介いただいたPTAの皆さんの御意見でありますとか、あるいは、御紹介させていただいた日本財団のアンケート結果、そういったものを見ても、20歳という意見が多数の見解だったと認識をしております。

少し内容的なところを見ていきますと、飲酒・喫煙が20歳からであるからという意見も実際あったところですし、やはり一番大きいのは、受験シーズンと重なってしまって、出席が困難だというようなことがあるのかと思います。

また、3つ目のところですけども、同じようなことですけども、やはり18歳というのは余裕がなくて、もう少し落ちついた時期がいいんじゃないかというようなことも指摘されてきたところですし、地域の活性化という視点も指摘されたところです。

一方で、1枚めくっていただきまして、18歳・19歳というような御意見もございました。一番大きいのは、理念的なところといたしましうか、成年年齢と成人式の対象年齢は必ずしも一致するわけではありませんということをお説明してきたわけではありますけれども、そうはいつでも、やはり社会において、成年年齢である20歳で大人という共通認識ができていたのではないかと、そうすると民法の成年年齢が変わるとすると、やっぱり18歳でやったほうがわかりやすいのではないかとというような意見が十分あり得ると思えますし、先ほどの成人式の意義ということとかかわってくるかもしれませんが、自覚を促すという意味では、早目のほうがいいのではないかとというような意見も示されていたところかと思えます。

そうですね、積極的な意味としては、そういったところで、あとは問題をどうやって解決していくかが、2つ目以降のポツで記載されているところですが、多数の意見としては20歳ということで、先ほど申し上げたとおりです、実際問題として、受験シーズンとのバッティングをどう解決していくかという問題があるかと思えます。

ただ、やはり、10年、15年たったときに、なぜ18歳で成年なのに、成人式を20歳でやっているのかという疑問が出てこないとも限らないと思えます。その辺をどう考えていくのかというのが、今後の成人式の対象年齢を考えるに当たって、一つ考えておいたほうがいいところかなというふうにも思っているところです。この点、御自由に御議論、御意見をおっしゃっていただければと思えますけれども、何かございますでしょうか。

○**全国市町村教育委員会連合会** ここもちょっと質問したいんですが、2ページ目のイのところの下から2つ目なんですけれども、参加者に20歳と19歳が混合することなく、20歳未満による飲酒の問題が激減すると、これがちょっと理解できないんですけれども。というのは、飲酒や喫煙は20歳で、変わらないわけですよね。そうすると、19歳で成人式やろうが、それはあれだし、20でもそれは混在しているわけだから、ここはどういうふうに理解したらいいのかなというふうに。

○**座長** 今は20歳が対象だといいますが、1月にやっていますので、1月後半とか2月生まれ、3月生まれの方は、19歳で成人式に参加されるんですね。ですので、現状では、20歳が対象といっても、実際には20歳の方と19歳の方がいらっしゃる。

ただ、大半の参加者が20歳なので、大体成人式終わった後、みんなで飲酒する場合もあるようです。そこに、同じ学年だということで、19歳の方も一緒に行っちゃうと。今、19歳、20歳と一緒に成人式に参加すると、一緒に参加者ということで、本当は飲めない19歳の人と一緒に飲んでしまうというような問題が起こっているおそれもあります。

他方、これを18歳あるいは19歳の方を対象にするということになると、誰も飲めないわけだから……

○**全国市町村教育委員会連合会** そういう問題がなくなると思えます。そういう問題が、一応クリアできるということですね。

○**座長** ええ。

○**全国市町村教育委員会連合会** わかりました。

○**座長** 趣旨としてはそういうことです。

○**全国市町村教育委員会連合会** ありがとうございます。

○**座長** ほかにいかがですか。

20歳を維持するという意見が多いわけですが、実際問題として、受験シーズンとの問題ということを考えると、確かに理解はできるころだと思います。あとは、意義との関係でどう考えるかということなのかなというふうに思っています、大人としての自覚という点を重視していくということであれば、18歳でもいいのではないかという意見もあると思いますし、成人式の意義を、例えば、深い自覚を持てる年代というふうに考えれば、高校生として親御さんのもとで育っていた時期よりも、学生や社会人としての経験を経たほうが、より一層自覚が持てるんじゃないかというような意見もあると思います。

○**全国市町村教育委員会連合会** イのところの2つ目のポツのところに書かれている、これは18歳の問題をクリアする、18歳に全員が達したとき、つまり高校を卒業してから行うという発想だと思うんですね。この考え方は成年年齢引下げに伴って、成人式を下げることができる市町村があったときに、この考え方は、非常にいい意見ではないかと思います。

○**座長** まさしく国東が、同じような感じですね。19歳になる年度の夏ということですよ。

○**全国町村教育長会** ちょっとわからないんですけども、これ、すごく難しい気がして、要するに過渡期だから、おっしゃったように、20というのが頭にあるんですよ、みんなの中に、20でやっぱり大人になったんだという。それを、勝手にとっちゃ悪いかな、18歳に成年年齢を変えたということによって、混乱を生じているだけであって、18歳だったら18歳でいいとは思いますが、いろんなところはクリアできる部分というのは、たくさんあるような気もするし、世界的に18歳が多いですよ、成年。

だから、要するに、何というか、民法的な解釈として、18歳というのを大人の成年にするということ自体は、おかしいことではないだろうというふうに思うんですが、それと成人式とリンクアップしているから、余計混乱する。だけれども、これは2、3年たてば、もとへ戻っちゃう、18歳だったら18歳で進められちゃう中身じゃないかなという気もするんです。今だから、何かすごく混乱しているような気がするんですけどもね。

だから、何かクリアしなくちゃならないものがいっぱいあるような感じがしますが、どっちがいいということは、これはいえないし、今過渡期だから、教育委員会がこれにするんだと決めて、それでやって、そうやって2、3年たつと、だんだん18になっていくというような中身になるんじゃないかなという気もしています。

○**座長** おっしゃるように、国が統一的に決めるという性質の問題ではないと思うので、それぞれの市町村において、どういう意義を期待するかということを考えながら御判断いただくという、そういうことですかね。

○**全国町村教育長会** だから、先ほどちょっと言った、20歳の集いというのは、20というのが今まであったから、それを集いをやる、重要視して、成人式という中身じゃない、20歳の集いをやるようなことを考えている教育委員会もあります。

○**座長** 少し名前を変えると……

○**全国町村教育長会** そうそう、名前、名称を変えてというふうな形で、今のところクリアしてきた。ただ、そのときには、やっぱり18歳のときに成人になったんだ、大人になったんだよという自覚的なものとしてのアピールが当然出てくる中身だろうと思うので……

○**座長** 18歳は18歳で、何か自覚を持たせるようなことを実施するということでしょうか。

○**全国町村教育長会** それはどうかかわからない、やり方はわからないですけども、今のところね。でも、そういう話をしていく中で、だんだん18歳になっていくんじゃないかなと

いう、しますね。

○**全国市町村教育委員会連合会** 私自身思うには、やはり自覚を、成年年齢を引き下げたんだから、やっぱりその自覚を持たせる、その機会は早いほうが、私はいいのかなと。

ただ、全体的にやっぱり、アの一番最初に書かれているように、全てが大人と扱われる20歳がいいんじゃないか、これももつともで、私としては、思いは、やっぱり全部認められたほうがいいんだろうけれども、自覚を促すという意味では、やっぱり全員18歳をクリアしたときに、何らかの形ができるのほうがいいだろう、それが成人式なのかなという思いは残っているんですけども。その辺、各市町村がどう判断するかなんですけども、どちらがいいかというところ……私どものとったアンケートの結果ですね。

○**全国町村教育長会** みんなありますけれども、18歳を成年年齢としている国は、成人式みたいなものというのはしているんですか。

○**座長** 私も、海外情勢に詳しいわけではないんですけども、同じようなことがあるというところもあれば、余り成人式みたいのもなくて、特にヨーロッパ、欧米諸国は、余りそういうのはやらないで、例えばアメリカなんかは、高校の卒業の何かダンスパーティーみたいなものが、いわば大人になった象徴的な儀式だみたいなことを言っている人もいらっしゃいます。そういう人もいるというだけなので、本当にそれがアメリカ、全国的にそういうふうには認識されているのかということ、またちょっと違うと思いますけれども。

○**内閣府** 日本式のように、自治体主体で、外国の場合ですね、私が調べる限り、日本スタイルのような、自治体中心で行っている外国の例は少ないんじゃないかという、ある意味、住民の、近隣住民との、での集まりとか、本当に部分的な集まりでやっているようなところがあるかもしれませんけれども、日本スタイルのような、自治体主催とか、そういった形式でやるのは、外国では少ないような認識をしておりますけれども。

○**厚生労働省** せっかく来たので、発言させていただきます。

実は今日初めて出席させていただきます。簡単に資料に目を通して来たのですが、一応、なぜ来ているかということ、生活衛生課ということで、サービスを供給する側の立場で来ております。パーマや美容の関係で成人年齢が20歳から18歳に引き下げることの影響があるかということ、美容業界としては、影響があるということです。

数年後ちょうど20歳と18歳が混在してしまうと頭一つに美容師さん1人になるので、急な需要増に対応できないので、20歳がいいのではないかということ、着物などもそうですが、経営面や供給側として美容業としては20歳の成人式がいいだろうという意見がございます。

厚労省の立場を離れますと、本来の趣旨である祝日法に、「大人になったことを自覚し、祝い励ます」とあるので、本来であれば18歳とは思いますが、18歳で成人式とした場合、今のライフステージと合っていないとか、あと、世論が20歳のままでいいじゃないかが大勢なので、結論を出さないということだと思います。今、先生方が言ったように、最初は20歳でやって、時機に大人の自覚を促すために18歳の方がいいのではないかという声に、ゆくゆくはなっていくのだろうなど。感想でした。

です、この法律の適用も……

○**座長** 2022年です。

○**厚生労働省** 2022年ですよ。その間でどうなっていくのかはありますが、最初

は20歳で、少しずつやっぱり18歳の方がいいのではないかと、あるいは世論の動静に委ねるのが適当なのかなと、今日の議論を聞いたり資料を読んだりして思ったところです。

うちの立場としては、20歳がいいのではないかと。フリートークになってすみませんが以上です。

○座長 おっしゃったように、それぞれの自治体がどういう意義づけをして、その中で、どうなっていくかということだし、もしかすると、18歳で成年になるという意識が定着していけば変わっていくということもあるのかもしれない。

○厚生労働省 祝日法の影響を受けるような気がしますが、今、20歳、1月中旬、大人の自覚というのが、成人式の3つセットになっているのは、法律に載っているからだと思います。この法律は議員立法なので世論とか、世の中のムードに合わせて、祝日法が変わってきて、やっぱり18歳がいいのだろうなという流れに将来的になるのだろうなと感じます。

今は変化期ということで、20歳でスタートして、少しずつ18歳にしていこうという流れの中で、20歳とする意見と18歳とする意見があったというのを示すのが、分科会としてはよいのではないかと思います。

○座長 祝日法との関係といいますか、祝日法は内閣府さんが御所管なんですけど、そこでいう大人と民法上の成年は必ずしも一致しないという御説明はしているんですが、おっしゃったように、世の中がどう捉えているかという、やはり民法の成年年齢と大人を結びつけているという、社会の共通認識が背景にあるのかもしれないです。

○全国町村教育長会 選挙が18歳からできるというような、高校の中で模擬選挙なんか今度始めているし、そこで自覚をすごく高めるような高校教育が進められているということは、すごく大きな力になるんじゃないかなという気がして、そういう中で考えていけば、先ほど言ったように、今は過渡期だからごちゃごちゃするけれども、18歳に定着していく見通しはあるんじゃないかなという思いがします。

だから、やっぱり18歳から成年なんだよという自覚を、やっぱり心の中で高めていくんだというようなことも、一つアピールすべきかななんて思います。

○全国都市教育長協議会 ここから、こういう意見が多いよとか、ああだよとか、皆さんにお示すわけではなく、こういう意見、こういう意見があって、いろんな市町村がありますよという感じで、それぞれで、実行委員会でやったり、市全体でやったり、いろいろだと思うけれども、それぞれで考えて、対応してってくださいということになるのかなというふうには思うので、意見としては、いろんな意見を出して、こういうような意見がありましたと示すんですね。

○座長 そうですね。

○全国都市教育長協議会 だから、その中に、いろんな意見があってもいいかなとは思っています。

もう物理的に、人数が多くて、式典すらできないぐらいの、何回かに分けてやっているようなところもあるわけで、20歳でやっている場合ですらそうなのに、2年分やる、3年分やるとか、段階踏んでやっていくとは思いますが、どうしようということにはなるかなと思うんです。

ですから、それはもう市ごとに、市町村ごとに考えてやっていかればよいことかなというふうに思うので、国としてというか、子供たちが大人になっていくための、先ほどおっしゃったような、選挙権が18歳からあるわけで、高校でしっかり、そういう勉強を必ず、どこかでやっているとは思いますが、そういうことを意識づけさせるということを重視して、それで、それでもそこで、全くの完全な大人じゃなくて、お酒が飲めたり、たばこが吸えるのは20歳からだよということになるわけだから、その辺が、例えば一緒の時期になるのであれば、外国は18だったらお酒も全部オーケーなのかな、それはわからないんですけども。

○座長 そこは様々で、飲酒年齢は日本より高く、例えば21とか……

○全国都市教育長協議会 遅いところもあるんですね。

○座長 お酒の種類によって違うなど、いろいろな制度がございます。

○全国都市教育長協議会 ああ、そうなんだ。

だから、20歳でやっていらっしゃっても、本当に大人はここからだよみたいな、社会に参加して、選挙権もあって、責任持った形で大人になっていくんだよというのは18歳という感じで、それはそれぞれの考え方で進めていただければいいことで、こういうことがいろいろ出てきて、意見がこれだけたくさんいろいろ出ましたよ、いろんな対応の仕方がされていますよということ在全国的に全市町村に流すのは、いつごろなんですか。

○座長 いつ公表できるかは、今の時点で確固たるものはございません。

ただ、この分科会の上にある連絡会議で策定した工程表上は、今年度中ということになっていますから、遅くとも3月末にはやらないといけないというふうに思っています。

○全国都市教育長協議会 完璧にこういうのを考えて、時期を考えたりというのは、この次の1月にやる成人式じゃなく、その次の年か次の年に向けてという形ですかね。

○座長 そうですね、2022年4月1日施行ですので、その直後の成人式は2023年ということになります。ただ、国東市のように、8月にやっているところが、2022年の8月から新しい体制で実施するのとかいうところはあるかもしれませんが、大多数の1月実施ということを考えますと、3年数カ月後になります。

○全国都市教育長協議会 今年度中ですね。

○座長 そうですね、今年度中には取りまとめ報告書をお出ししたいと思っております。

今、都市教育長会さんのほうからもありましたように、こうしていただきたいということは言えませんので、取りまとめの方向としても、様々な意見がありましたというような、幾つもの議論を併記するというような形で準備することとしたいというふうに思っています。ほかに、こういう意見も入れておいたほうがいいんじゃないかとか、こんな視点もあるんじゃないかというのがあれば、最後に承っておきたいと思いますが、特にこれ以上に付加するものというのはいりませんか。

本日は、これまでの議論を振り返って、教育委員会、教育長の皆様からさまざまな御意見いただきまして、活発に御議論いただきまして、どうもありがとうございます。

それでは、本日、特になければ、本日の分科会は以上で終了にさせていただきます。どうも活発な御議論をありがとうございました。

—了—